【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】令和5年10月19日(2023.10.19)

【国際公開番号】WO2021/076657
【公表番号】特表2022-551961(P2022-551961A)
【公表日】令和4年12月14日(2022.12.14)
【年通号数】公開公報(特許)2022-230
【出願番号】特願2022-522397(P2022-522397)
【国際特許分類】
A24F 40/42(2020.01)
A24F 40/10(2020.01)
A24F 40/485(2020.01)
【FI】
A24F 40/42
A24F 40/10
A24F 40/485

【手続補正書】
【提出日】令和5年10月11日(2023.10.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
気化器内の貯蔵室と隣接するオーバーフロー容積との間の液状の気化可能材料の流れを制御するためのマイクロ流体ゲートであって、前記マイクロ流体ゲートは、
前記貯蔵室とコレクタの前記オーバーフロー容積とを接続する複数の開口部であって、前記複数の開口部は、第１のチャネルおよび第２のチャネルに接続し、前記第１のチャネルは、前記第２のチャネルよりも高い毛細管駆動を有する、複数の開口部と、
前記複数の開口部間のピンチオフ点と
を備える、マイクロ流体ゲート。
【請求項２】
前記マイクロ流体ゲートは、前記貯蔵室と前記コレクタとの間に、前記貯蔵室に面する第１の側が、前記コレクタに面する第２のより丸みを帯びた側よりも平らな開口の縁を備える、請求項１記載のマイクロ流体ゲート。
【請求項３】
マイクロ流体圧力均一化用の装置であって、
ベントに流体接続された第１の毛細管チャネルと、
貯蔵室に流体接続された第２の毛細管チャネルと、
上壁と下壁とを含む高駆動チャネルであって、高駆動チャネルが第３の狭窄点を起点として前記上壁と前記下壁との間で第１の毛細管チャネルと第２の毛細管チャネルとに向かって外向きに発散する、高駆動チャネルと
を備える、デバイス。
【請求項４】
前記第１の毛細管チャネルは、前記高駆動チャネルをオーバーフローチャネルに流体接続する、請求項３記載のデバイス。
【請求項５】

前記オーバーフローチャネルは、前記第１の毛細管チャネルを前記ベントに流体接続する、請求項４記載のデバイス。
【請求項６】
前記第３の狭窄点は、前記高駆動チャネルおよび前記貯蔵室に流体接続する、請求項３から５までのいずれか１項記載のデバイス。
【請求項７】
単一チャネルが、前記高駆動チャネルを形成する、請求項３から６までのいずれか１項記載のデバイス。
【請求項８】
前記高駆動チャネルは、その中に障害物を有しない、請求項３から７までのいずれか１項記載のデバイス。
【請求項９】
前記上壁は、前記第３の狭窄点から前記第２の毛細管チャネルまで延在している、請求項３から８までのいずれか１項記載のデバイス。
【請求項１０】
前記下壁は、前記第３の狭窄点から前記第１の毛細管チャネルまで延在している、請求項３から９までのいずれか１項記載のデバイス。
【請求項１１】
前記高駆動チャネルは、気体の泡を前記貯蔵室に放出する圧力均一化イベントの後に、前記第１の毛細管チャネルおよび前記第２の毛細管チャネルを液体でシールするように構成される、請求項３から１０までのいずれか１項記載のデバイス。
【請求項１２】
マイクロ流体圧力均一化用のデバイスを含む気化器用のカートリッジであって、
気化可能液体を保持するように構成された貯蔵室を含むカートリッジハウジングと、
ベントに流体接続された第１の毛細管チャネルと、
貯蔵室に流体接続された第２の毛細管チャネルと、
前記貯蔵室に流体接続された第３の狭窄点と、
高駆動チャネルであって、前記高駆動チャネルは、前記第３の狭窄点を起点とし、前記第１の毛細管チャネルと前記第２の毛細管チャネルとに向かって外向きに発散し、前記高駆動チャネルは、気体の泡を前記貯蔵室に放出する圧力均一化イベントの後に、前記第１の毛細管チャネルおよび前記第２の毛細管チャネルを流体的にシールするように構成される、高駆動チャネルと
を備える、気化器用のカートリッジ。
【請求項１３】
前記第１の毛細管チャネルは、前記高駆動チャネルをオーバーフローチャネルに流体接続する、請求項１２記載のカートリッジ。
【請求項１４】
前記オーバーフローチャネルは、前記第１の毛細管チャネルを前記ベントに流体接続する、請求項１３記載のカートリッジ。
【請求項１５】
前記第３の狭窄点は、前記高駆動チャネルおよび前記貯蔵室に流体接続する、請求項１２から１４までのいずれか１項記載のカートリッジ。
【請求項１６】
前記高駆動チャネルは、上壁と下壁との間に画定された０度～２１度のテーパ角を有する、請求項１２から１５までのいずれか１項記載のカートリッジ。
【請求項１７】
単一チャネルが、前記高駆動チャネルを形成する、請求項１２から１６までのいずれか１項記載のカートリッジ。
【請求項１８】
前記高駆動チャネルは、その中に障害物を有しない、請求項１２から１７までのいずれ

か１項記載のカートリッジ。
【請求項１９】
前記上壁は、前記第３の狭窄点から前記第２の毛細管チャネルまで延在している、請求項１６から１８までのいずれか１項記載のカートリッジ。
【請求項２０】
前記下壁は、前記第３の狭窄点から前記第１の毛細管チャネルまで延在している、請求項１６から１９までのいずれか１項記載のカートリッジ。
【請求項２１】
前記高駆動チャネルは、気体の泡を前記貯蔵室に放出する圧力均一化イベントの後に、前記第１の毛細管チャネルおよび前記第２の毛細管チャネルを前記気化可能液体でシールするように構成される、請求項１２から２０までのいずれか１項記載のカートリッジ。